

2024/7/1 更新

※当正誤表は中小企業診断士講座全コース共通のものになります。
 ※教材によっては、お申込みのコースに含まれないものもございます。詳しくは受講ガイドにてご確認ください。
 ※更新日は正誤表に掲載した日付となります。最新版は TAC WEB SCHOOL のマイページ「正誤情報」をご確認ください。

【今回更新分】

更新日	教材／ページ・行	誤	正
■最終講義レジュメ			
7/1	p. 58 【解説】 (設問 1) b	b ○ : 正しい。貨幣需要の所得弾力性が大きいほど、物価下落に伴う利率低下の効果が大きくなる。その結果、投資が大きく増加し、実質 GDP も大きく増加する。よって、AD 曲線は緩やかに描かれる。	b × : 貨幣需要の所得弾力性が小さいとき、LM 曲線は緩やかに描かれる。この場合、物価下落に伴う利率低下の効果は小さくなる。その結果、投資があまり増加しないため、実質 GDP の増加幅は小さくなる。よって、AD 曲線は急に描かれる。
7/1	p. 58 最終行	よって、a=「正」、b=「正」、c=「誤」となり、イが正解である。	よって、a=「正」、b=「誤」、c=「誤」となり、エが正解である。
7/1	p. 81	(2) 令和 4 年度の歳入と歳出の状況 令和 4 年度の一般会計予算の歳入と歳出の内訳は次のとおりである。	(2) 令和 5 年度の歳入と歳出の状況 令和 5 年度の一般会計予算の歳入と歳出の内訳は次のとおりである。

【前回更新分】

更新日	教材／ページ・行	誤	正
■1 次上級テキスト (下巻)			
4/8	p. 171 【解説】 選択肢イ	イ × : 政府支出を増加させ AD 曲線をシフトさせても国民所得は変わらず物価は上昇する。	イ × : 政府支出を増加しても AD 曲線はシフトしない。よって、国民所得および物価は変わらない。 ※P.171 記載の図を削除してください。

正誤を発生させてしまいまして誠に申し訳ございません。ご確認の上、訂正いただきますようお願い申し上げます。

